

RID2680 2023~`24 年度 西播第一グループ
6 ロータリクラブ合同例会

2023年7月13日(木)
(於)姫路商工会議所 2F 大ホール
ホスト：姫路中央ロータリークラブ

プログラム 演題「環境破壊の最たるもの、それは戦争だ！」

講師：朝比奈潔氏

- 1 以下の項目等の現状について脈絡もなくお話をした。
- ① HIROSHIMA SUMMIT の準備ワーキングの「大量破壊兵器とテロ対策」に関する会議に出席した経緯と討議の概要を説明した。
 - ・殆どがウクライナ問題で、私共はウクライナの Dual-Use Chemicals を扱う工場が破壊され、汚染が周りの環境と住民に被害が及んでいることを指摘し対策を講ずるよう提案した。
- ② 福島第一原発の事故の遠因を、設計当時から今回の事故発生に至る経緯と福島第一原発と女川原発が重大事故を免れたわけから説明、改良型設計(福島第二)の既存設備(福島第一)への反映時の許認可問題、企業トップの英断、又事故発生時の与党の不適切な対応を指摘し、地下鉄サリン事件時の井上警視総監の見事な対応と比較した。
- ③ 化学兵器禁止条約の現状、即ち備蓄兵器と非備蓄兵器処理の現状をバルト海への化学兵器廃棄の歴史とクリンナップの困難も含め説明し、又性善説を基本とした条約の限界、更には新たに発生した問題点とその対応の困難さを指摘した。
- ④ コロナ禍は米国防省関連の会議をヴァーチャル会議に変貌させ、そのメリット特にトップ責任者の参加を容易にした。その例をバイルート港での大爆発の最新情報入手として示した。
- ⑤ テロリストから見た標的は、狙い易いソフトターゲットとマスコミの反応効果の大きさを基にしているにしていることを、元テロリストの話として紹介した。この観点からすると、バイルート港の爆発は Dual-Use Chemicals が恰好の標的になることをテロリストに教えたと指摘した。テロ防止対策の新たな課題である。
- ⑥ 元米国防省ラムズフェルド長官の言葉、「物事には『分かっていない』ということすら『分かっていない』ことがある」を紹介し、先の読めない物事には謙虚さをもってあたる必要であるとの指摘と私は理解した。地球環境保護の為の CO2 削減の理論的根拠が、地球温暖化現象の指摘から気候変動に変わっているのもその例である。③で述べた化学兵器の新たな問題についても過去の延長で捉えることなく対応する必要がある。
- ⑦ 最後に、戦争は環境破壊の最たるものであるが、皆が決心すれば廃絶は可能。この考えを広める為のロータリアンの活動に期待を表明した。

2 質疑応答

- ① バルト海のその後：ノルドストリームを例に進展なし。
- ② コロナの発生原因：フランスが武漢に建設した生物研究所の引き渡し時に、施設の運用ノウハウの移転を拒否したことによる相手方の管理の不備と、米情報筋の情報として菌が研究所外に拡散した経緯を説明。
- ③ 福島第一のトリチウム水放出：部外者であり専門分野でもない為、私見を述べるに留めた。
- ④ ベイルートの大爆発時の硝安の行先：行き先国は不詳だが、現事故が偶発の重なりであることに鑑み、テロとの関連の政治目的ではなく通商目的で肥料と火薬の Dual -Use Chemicals を輸出する途中の出来事と推測した。

以上